

9月13日に第20回世界陸上競技選手権大会が東京で開幕しました。第1回は1983年にヘルシンキ(フィンランド)で行われ、1991年の東京大会以降は2年ごとに開催されています。

日本での開催は2007年の大阪以来18年ぶり、東京での開催は、1991年以来34年ぶりです。約210か国・地域から2,000名以上の選手が参加します。前回のブダペスト大会(ハンガリー)では、日本は金メダル1個、銅メダル1個を獲得しました。今大会でも素晴らしい活躍を期待したいですね。

パイプシステム通信 編集部

2025年10月29日～31日 2025広島水道展

(一般社団法人 日本水道工業団体連合会主催)

「2025広島水道展」が2025年10月29日から3日間、ひろしまゲートパークで開催されます。

展示会では「クボタがつなぐ、未来の水道」をテーマに、クボタグループ(株)クボタ・(株)クボタケミックス・クボタ環境エンジニアリング(株)・クボタ建設(株)・(株)管総研)が目指す未来の水道の姿を製品・ICTを活用したサービス・ウォーターPPP等への取り組みを通じてご紹介する予定です。ぜひ弊社ブースNo.29にお立ち寄りください。

また、同日開催の水道研究発表会では、論文発表も行っております。



ウォーターパイプコム (既設管用サドルタイプ)

水道管路の維持管理業務を効率化するため、弊社では管路内に設置するセンシング機器の開発を進めています。センシング機器からのデータを多点で通信取得し、管網解析結果と連携させることで管路の高精度の遠隔監視を実現します。

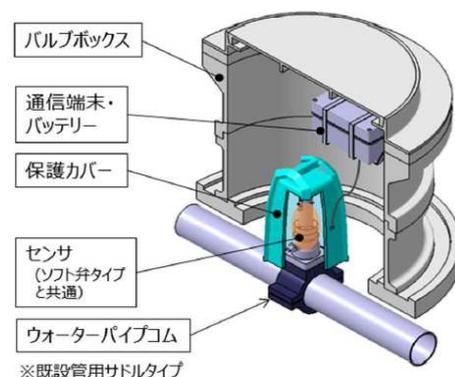
「ウォーターパイプコム」は水圧・流向・流速センサを搭載したセンシング機器で、仕切弁タイプを先行販売しておりましたが、2025年11月から既設管用サドルタイプの販売を開始する予定です。既設管タイプは、呼び径75～300の既設の管路にサドルを介してセンシング機器を搭載し、バルブボックス内に設置した通信端末(バッテリー駆動)からセンシングデータを通信可能です。低コストで管路内の状態を見える化できます。

遠隔監視が可能となるため、現地調査時間の削減、管理コストの低減および配水ブロック内の漏水、異常の早期検知による対処業務の効率化等が期待できます。

「ウォーターパイプコム」の測定

データは、クラウドサーバー上に蓄積され、マッピングシステム「PIPISION GIS」上で、管網内の測定点を表示し、測定データの閲覧やアラート通知が可能です。多点で測定することで水道管路の状態を面的に把握することができます。

ご興味がおございましたら、弊社営業担当者までご連絡ください。



仕切弁タイプ
(先行販売)



既設管用サドルタイプ
(11月販売開始予定)



GX形ダクタイル鉄管 呼び径600 東北地区初施工・施工情報システムⅡ採用

at 青森県青森市

青森県青森市企業局水道部では、今年度から事業開始となる青森環状野内線配水管更新工事において、昨年度JPA規格化され今年度から本格販売が開始されているGX形ダクタイル鉄管呼び径600を採用し、2025年7月から施工が開始された。(請負業者:株式会社鹿内組 様 施工延長:235m)

今回は同製品の東北地区での初採用工事となり、今回の施工では合わせて施工情報システムⅡによる施工管理も行っている。

メタルタッチ構造、管下ボルトレス、ボルト本数の削減など、従来のNS形と比べ施工性が大幅に向上しており、工事は順調に行われた。

＜ご発注者: 青森県青森市企業局水道部 様＞

今回、従来のNS形から施工性が大幅に改善されたGX形ダクタイル鉄管呼び径600が発売開始となったため、今年度から始まる更新工事に採用した。業者からの評判も良く、引き続き他の口径でも採用を検討していきたい。また、メーカーには引き続きより良いものを継続的に開発し提供してもらいたい。

＜施工業者: 株式会社鹿内組 様＞

GX510の特長である①トルク管理不要、②ボルト本数削減、③管下ボルトレスにより従来と比べて大幅に作業効率が上がった。また、切管用挿し口リング、ライナのセットもNS形に比べ、作業し易かった。

